



2人の姉妹 - 2人の芸術家

Jobs〈ヨブス〉という名前は、1940年代からのスウェーデンテキスタイルの典型的な花柄の代名詞になっています。あまり知られていないのは、Lisbet JobsとGocken Jobsが当初陶芸家として教育を受けたという点です。当初、ふたりは独立したアーティストとして活動し、彼女たちの作品は共同作業を通じて国際的な評判を得ていきました。本書は、スウェーデンの工芸やデザインに興味のある読者を対象とした、姉妹の多才な芸術的才能が歴史的な文脈で構成され、デザインジャーナリストのHedvig Hedqvistによって執筆したものです。構成と画像の選択は文化歴史家のChristina Mattssonによります。

HEDVIG HEDQVIST - 著名デザインライター
元インテリアデザイナー。Svenska Dagbladet誌、Arkitektur誌、Form誌、Femina誌、Residence誌、Sköna hem och Vi誌に寄稿。Internationell Design(2003)、Modernt svenskt tenn(2004)、Stora boken om inredning(2008)などデザイン、工芸、建築、”スウェーデンのカタチ”に関する書籍の共著者。

CHRISTINA MATSSON - 民俗学者、魚科学者、音楽ラジオワーカー、ノルディスカ博物館元理事、執筆者



[写真]Lisbet JobsとGocken Jobs(1944年撮影)

Lisbet Jobs(1909-1961)とGocken Jobs(1914-1995)は、ストックホルム技術学校の陶芸科を卒業後、ふたりの独立したアーティストとして、共に同じスタジオで活動を開始。1943年からは生涯を通して、レクサンドのVästankvickで活動を続けました。1930年代にはふたりは共に著名な若い陶芸家として、主に花柄のボウル、容器、マグカップなどの他、装飾タイルを専門とした作品で注目を集めていました。しかし、大戦によって釉薬の入手が制限され、弟ペールの進めで姉妹はその特徴的な花のモチーフを、新たな可能性を秘めた繊維製品への移行を試み始めます。ふたりのデザインした繊維製品は、1945年にNK(エヌコー/ストックホルムのデパート)において大々的に発売され、花開きます。木版が主だった弟ペールのJobs Handtryck手染め工房(ヨブス工房)でスクリーンプリントの技術を確立されるまでの間は主にNK向けにコンパリで印刷され、やがてその殆どを現在のヨブス工房で印刷されるようになります。

まばゆいほど魅力的な抽象的な花柄はLisbetとGocken Jobsのテキスタイルパターンの主な特徴ですが、そのモチーフには細かい小花模様、様式化されたモチーフや具象画などのモチーフもあります。近年、ふたりの描いた古典的なパターンが新しい発見となっているのは偶然ではありません。

Hedvig Hedqvist & Christina Mattsson 著

Jobs keramik och textil

「ヨブス陶器&テキスタイル」

リスベット・ヨブス&ゴッケン・ヨブス、

2人の姉妹 - 2人の芸術家

ハードカバー/布張り・上製本、240×260mm、256頁

votum.

VOTUM & GULLERS FÖRLAG

国内取扱店：

スウェーデンホームギャラリー

〒194-0042 町田市東玉川学園2-28-24

www.sweden-sweden.jp info@sweden-sweden.jp

